

都留市地名考

その五

窪田 薫

鹿留

古代用語に四至勝示という言葉がある。「四至」は東西南北の境界をいい、「勝示」は境界のしるしに立てる杭のことである。

都留郡鹿留の地名については、「富士の巻狩の時、頼朝の臣仁田四郎忠常が手負の鹿をうちとめたので地名になった」と伝えられている。

しかし、すでに『日本後紀』の延暦十六年(七七七)三月記に、甲斐相模郷の帰属の問題で、鹿留の地名があげられている。

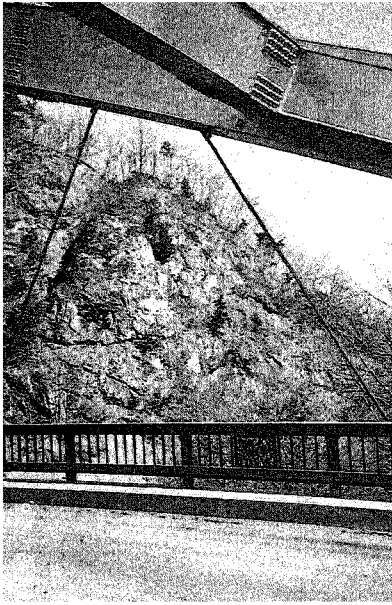
『甲斐国志』に、四方津(上野原町)について、「此ノ村古ヘ鹿留ト称シ、後改メテ四方津ト号ス、蓋上(都留市鹿留)ニ鹿留村アレバ改メシナラン」とある。鹿留は四至の宛字と考えられる。都留市の鹿留は古代の賀美郷と

多良郷の、また上野原の鹿留(四方津)は古郡郷と福地郷の郷界を標示した集落と思われる。

『甲斐国志』によると、八代郡の北界と、山梨郡の南界の境界に鹿泊(浅沼)という地名があり、字義として泊も留も「とまる」の意があり、鹿留と同意と解せられよう。

都留市下谷の小字に「獅子岩」がある。これは岩が獅子の形に似ているからでなく四至の意で、方角や場所を示す目印にする意である。

『甲斐国志』に、「本村ノ東門通院ノ後山高ク尖リ石山此レ古ノ烽火台ナリト云フ、本村(谷村)ニテハ此ノ山ヲ乙(音)岩ト云ヒ、深田ノ辺ニテハ茶臼山ト云フ、法能ノ方ニテハ獅子岩ト云フ」とあるが、この場合獅子岩とは法能と谷村の境界に位置する岩山であるからであろう。



都留市下谷「新羽根子大橋」から見た獅子岩

おわび……地名考1の『妙法寺記』の谷を屋、『甲斐国志』の屋を谷に訂正。

『都留の植物』写真展



都留自然散歩 植物

私たちの身近にある四季おりおりの植物を紹介した郷土資料「都留自然散歩・植物」が都留文科大学の森江晃三教授によって去る一月に刊行されました。

この冊子は屋外などの自然観察のとき便利なように、はがきよりひとまわり大きなB6変形判五十ページほどの装丁となっていて、このため掲載写真が小さく、植物のようすが十分にお伝えできない面

があります。

このたび、著者の森江教授のご厚意により、この冊子に使用した植物の写真の中から、大きく引き伸ばして皆さんにお楽しみいただく展示会を開催することになりました。

また、これらの展示に使用した写真はさらに親しんでいただくため、実費で頒布される予定です。

都留市の野に咲く四季の草花をご覧になり、ふるさとのすばらしい自然を再発見してください。

開催期間 6月23日(火)～28日(日)

開催場所 ふるさと会館一階 展示ホール

開催時間 午前9時30分～午後4時30分

なお、申込者には追って日程等をお知らせします。一講座一時間三十分から二時間、平日の午後を予定しています。

ふるさとカレッジ 受講生募集

ふるさと会館三階研修室を会場に、歴史・文化・自然・環境・経済等様々な分野について、「ふるさと都留」を学習していただく講座です。

七月～二月まで、月一回計八回の講座を予定しています。

定員 30名
受講料 無料
申込先 市教育委員会

※定員になり次第締め切ります。社会教育課



子どもクラブの リーダー研修会



昨年の研修会

地域における「子どもクラブ」の重要性は、学校五日制などを控えて、一層重視されています。

市では例年「ジュニアリーダー研修会」を開催していますが、本年も「子どもクラブジュニアリーダー」研修会を開催します。

申し込み順に受け付け、定員になれば締め切ります。

日時 6月27日(土)午後1時～6月28日(日)午後3時

会場 市営グリーンロッジ
参加者 小学校：5・6年生

参加費 1,000円
締切 6月10日

申込先 市教育委員会社会教育課